

2015.1 No.12 新春号

◆ 地域貢献活動をいかし企業価値向上

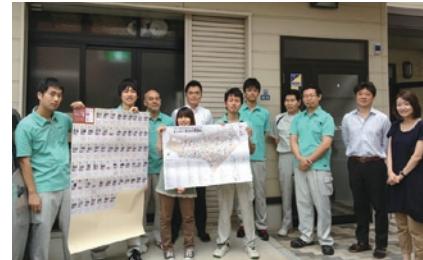
産業用電気ヒーターの製造販売を行うスリーハイ（都筑区山田）は、6年前に横浜型地域貢献企業の認定を取得しました。「地域に根付く企業でありたい」「企業価値を高めたい」という思いから様々な活動を行うなかで、企業としての差別化を図り、自社の取組を積極的にPRしています。

同社は地域のNPO団体とタイアップして「東山田工業団地防災マップ」を作成しています。県の「かながわ子ども・子育て支援大賞」特別賞を受賞したこの取組では、同社の社員が東山田中学校の生徒たちとチームを組み、工業団地内の企業を訪問、インタビューを実施し、AEDや医薬品の備蓄状況などを地域の防災情報として

まとめ、周辺の住民や企業などに配布しています。

同社にとって、防災マップづくりは社員教育の機会ともなっています。活動を行うなかで社員は、通常の企業活動ではかかる機会がない地域の住民や中学生、企業をはじめ、様々な関係者とコミュニケーションをとります。こうした活動をつうじて地域に関心を持ち、地域の一員として自信をもって行動するようになりました。さらに、社員の満足度が向上し、仕事の面でも積極性を發揮するなど、意識の変化も見られるようになったということです。

横浜型地域貢献企業認定制度は、企業の社会的責任とあわせて、地域貢献活動を展開すること



▲ 中学生とともに作成した防災マップ

によって社員満足度の向上など企業活動が円滑に行われるよう、マネジメントシステムを重視していることに特徴があります。

今年度前期は28社が新たに認定され、計313社に達しました。企業価値の向上にもつながるこの制度を成長戦略のひとつとしてご活用ください。

詳細は、IDECホームページ<http://www.idec.or.jp/keiei/csr>（問 経営支援課045-225-3714）

◆ ベンチャーの技術をいかして社会に貢献する自社製品開発を応援 ～ものづくりコーディネーターがマッチング～

アポロジャパン（鶴見区小野町）のスクリーンコードは、肉眼では識別できない極小ドットをコードとして印刷物などに埋め込む技術です。中国ではセキュリティコードとして利用され、地方税の領収書やパスポートの偽造防止に役立っています。同社は、この技術のライセンス事業を展開しており、今回、ものづくりコーディネーターがマッチングのお手伝いをしました。

野毛印刷社（南区新川町）は、横浜型地域貢献企業の最上位認定を受けている横浜を代表する印刷会社です。同社の業務は、広告物などの注文を受けて、印刷するのが主体ですが、デジタル化の波によつて紙媒体による広告は減少の

一途をたどっており、消費者向に自社商品を開発することが課題となっていました。

コーディネーターがスクリーンコードを紹介したところ、社会貢献を社是とする同社のコンセプトをいかして、「子育てノート」が誕生しました。このノートは、日記帳のように子育ての記録を書き込むことができるほか、ページごとにスクリーンコードが埋め込まれており、iPhoneでこのコードと画像や動画、音声などを自由に関連づけることができます。必要なときにコードを読み取ることによって、コンテンツが再生され、文字の記録とその時の映像や音声が鮮やかによみがえるユニークなノートです。



▲ アマゾンで販売中の『子育てノート』

スクリーンコードの用途はアイディア次第です。同社の北澤氏（社長付）は、「今回は、この技術の可能性を示すプラットフォームのようなつもりで企画した」と語っており、今後の展開が楽しみです。

詳細は、IDECホームページ<http://www.idec.or.jp/gijitsu/>（問 技術支援課045-225-3733）

ワンストップ経営相談窓口をご利用ください

創業や企業の経営課題の解決に向けて、IDECK職員・専門家がお手伝いします！

TEL.(045)225-3711(財団本部) TEL.(045)788-9571(金沢相談窓口)

www.idec.or.jp/keiei/

■ Pick Up

横浜市立大学と包括連携協定を締結しました

昨年8月1日、IDECAは地域経済の発展と市内中小企業の活性化を目的に横浜市立大学と包括連携協定を締結しました。

これまでにも、IDECAが仲介を行った市内中小企業の高周波技術を応用して、市大が研究中の癌治療技術の開発が進められているほか、実験で使うテフロン部品の加工先を探していた研究者に精密切削加工が得意な市内中小企業を紹介するなど、様々な連携を市大と進めてきました。

9月30日には、「包括連携協

定記念「産学連携／医工連携セミナー」を開催し、市大の窪田学長の基調講演をはじめ、臨床現場の具体的なニーズや医療現場で使える技術シーズについて研究者の方々から講演いただきました。また、すでに市大との医工連携を進めている中小企業から、これまでの事例紹介や今後の連携強化に対する期待が示されました。

協定締結を契機として、セミナーや研究会の開催によって医工分野をはじめ各分野の産学連携をより一層強化し、研究者と企業の

開発プロジェクトや外部研究資金の獲得等を支援することによって、市大の技術シーズや医療ニーズをいかして、市内中小企業等の新たなビジネスチャンスにつなげていきます。



▲ 講演する窪田学長

詳細は、IDECAホームページ <http://www.idec.or.jp/gijutsu/> (問 技術支援課 045-225-3733)

海外レンタル工場－現地視察会



▲ 9社10名が参加した現地視察会

タイとベトナムのレンタル工場運営会社との覚書締結については、前回のニュースレターでお知らせましたが、日経新聞に大きく取り上げられたこともあり、自

動車や機械関連の中小企業が独自に計画を立て現地視察を行うなど、具体的な検討に着手する動きが出てきました。

IDECAは昨年10月にベトナムからレンタル工場運営会社KIZUNA JVのヒエウ社長を招き、「IDECAベトナムセミナー」を開催しました。ヒエウ社長からは、中小企業の受け皿として多くの特長を持った施設の概要や日本人スタッフを含む充実したビジネスサポート体制について紹介がありました。また2013年に、同施設に入居した三島金属製作所(愛知県)

の三島社長からは、中小企業の立場からベトナムビジネスの実体験と施設について入居後の感想などを報告いただきました。

また、12月2日にはベトナムで現地視察会を開催し、9社が参加しました。参加企業からは、「思っていたよりつくりがしっかりしている。」「セキュリティが万全で安心できる。」などの感想が聞かれました。

視察会はタイ・ベトナムで随時実施する予定です。レンタル工場に関心をお持ちの方は、ご連絡ください。

お問合せは(国際ビジネス支援部 045-225-3730)までご連絡ください。

中国の展示会を活用して販路開拓

リアルソフト(中区不老町)は生産管理パッケージソフトの販路開拓に展示会を活用しています。このソフトは日英中3か国語に対応しており、中国に進出した日系中小企業には定評があります。

同社は中国に子会社を持っていますが、物流系ソフトウェアなどを主力商品にしている日系企業を代理店として販売を委託し、拡販を図っています。販路開拓には展示会を有効に活用しており、昨年11月の上海工業博をはじめ、この2年間で上海の展示会に3回出展しました。

工業博はソフトウェアの販路開拓には必ずしも向いているとは言えないかもしれません、同社は日系の出展企業にターゲットを絞り、顧客を開拓しています。山本マネージャーは異国の地での出展企業同士という連帯感が生まれると感じています。また、上海の代理店も共同出展を行うことによって、技術系の社員にも営業的なノウハウを体験させる機会として活用し、代理店の販売スキルアップも期待しています。

同社のようにターゲットを明確にした展示会の活用方法もあ

ります。IDECAは、上海工業博で横浜ブースを出展し、同社を支援しました。今後もニーズに合った販路開拓を支援していきます。



▲ 工業博内に4小間の横浜ブースを出展

お問合せは(国際ビジネス支援部 045-225-3730)までご連絡ください。

■ Pick Up**外国人研修生が企業を変えた**

IDEC は横浜市立大学と連携し留学生を市内企業に紹介するインターンシッププログラムを実施しています。このプログラムでは、留学生は日本企業のビジネス習慣を学ぶことができ、企業は外国人材の活用や学生特有の感性をいかして業務の見直しや改善につなげられるなど、留学生と企業が相互にメリットを享受できることを目的としています。

アニメなどのキャラクターグッズの製造・販売を行っているマイルストン（中区尾上町）は、香港

からの留学生イプ・ウイングヒンさんを受け入れました。イプさんは、日本アニメの熱烈なファンで大学ではアニメを活用した地域活性化について研究しています。同社はアニメ関連グッズの製作技術は持っていますが、「オタク」目線での商品企画や商品紹介のコメント作りができる人材は不足していました。イプさんの受け入れによってオタクのニーズに加えて、海外の若者の感性を知る良い機会になったそうです。イプさんはプログラム終了後も、ネットを通じて同社のグッズの情報発信を手伝っているということです。

インターンシップ受入れに関心がある方は、お問合せください。



▲ 研修中のイプさん

お問合せは（国際ビジネス支援部 045-225-3730）までご連絡ください。

横浜ビジネスグランプリ最優秀賞受賞企業の売上が6倍増!

▲ グランプリを獲得した「オーラルピース」

葉区大場町）の革新的な口腔ケア製品「オーラルピース」事業が最優秀賞（グランプリ）を獲得しました。

IDEC はこの事業を支援するために、プレスリリースなどの広報協力をはじめ、ネットワークを駆使して、関連の専門商社などとのビジネスマッチングをセットしました。この結果、日本最大の病院売店チェーン運営会社など複数の業務提携に成功しました。オーラルピースの売上げは受賞前と比べ6倍以上も増加しています。新聞、雑誌などでも取り上げられる

機会が増え、昨年10月にはNHKの情報番組「サキどり」で放送され、問合せが殺到しています。

IDEC は横浜ビジネスグランプリを優秀な起業家を継続的に支援する機会ととらえており、グランプリ受賞者だけでなく優秀な起業家のビジネスプランの実現に向け、広報や販路開拓などを総力を挙げて応援します。

「横浜ビジネスグランプリ2015」は、2月21日（土）13時30分からランドマークホールで開催します。新たなグランプリ企業誕生の瞬間をぜひ会場でお確かめください。

詳細は、IDECホームページ <http://www.idec.or.jp/kigyo/ybg/php>（問 経営支援課 045-225-3714）

■ Column 「IDEC上海事務所レポート」**◆ 上海で躍進する横浜企業－仲田コーティング**

樹脂コーティングで様々な技術をもっている仲田コーティング（保土ヶ谷区東川島町）は、中国進出が契機になって車のダッシュボードの表面を覆う樹脂を形成するパウダースラッシュ成形機で世界的なシェアをもつまでに成長しました。

同社は9年前、樹脂コーティングの技術をいかして中国企業から自動車部品の加工などを受注するため、上海郊外に工場用地を確保しました。しかし、しだいに部品加工の受注より、装置そのものを買いたいという注文が

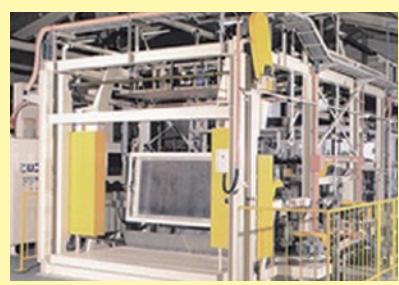
増加したため、現地生産を開始し、中国の自動車産業の発展とともに着実に業績を伸ばしてきました。中国では販路開拓に苦労する日系企業が多いなかで、同社は特別な営業活動は行っていません。

松野代表取締役が重視しているのは、徹底的にユーザーの立場で考えたアフターサービスの提供です。そのため日頃から、ユーザーの反応に耳を傾け、装置の改良にいかしてきました。そうした取組が中国や欧米の企業にも高く評価され、リピーター

上海事務所副所長 川北 彰子

や口コミでの受注につながっているそうです。

同社は、横浜知財みらい企業にも4年連続で認定されており、今後の発展が楽しみな企業です。



▲ パウダースラッシュ成形機

◆各種イベントを開催しています

/ 2015.1~3 /

イベント名 / 会場	時期
ベトナムサポートデスク報告会 / IDEC大会議室 中小企業にとってのベトナムビジネスについて現地駐在員がわかりやすく解説します。	1月21日（水） 14:30～17:00
Soup Stock Tokyoの創業者に学ぶ!「やりたいことをやるビジネスモデル」 / TKPガーデンシティ横浜ホールA Soup Stock Tokyoなどを運営されている株式会社スマイルズの遠山社長から、会社を興し経営していくにあたって必要と感じたこと、事業を成長・発展させる秘訣等について講演いただきます。	1月28日（水） 18:00～21:00
テクニカルショウヨコハマ2015 / パシフィコ横浜展示ホールC・D 「よこはま産学・企業間連携コーナー」として、IDEC 広域連携大学や横浜市内企業・機関と共同出展します。	2月4日（水）～ 6日（金） 10:00～17:00
2015年度の為替相場見通しとグローバル経済の現況 / 横浜情報文化センター 情文ホール 三井住友銀行との連携により最新情報を届けします。	2月13日（金） 13:30～16:00
株式公開への道～創業から上場までの10年、そして今後の展望～ / TKPガーデンシティ横浜ホールA iPS細胞の持つ力を応用し次世代医療への貢献を目指す株式会社リプロセルの横山社長から、資金調達や人材育成など創業後10年で株式上場まで果たした道のりについて講演いただきます。	2月18日（水） 14:30～18:00
第4回医療機器ビジネス参入促進セミナー / IDEC大会議室 市内中小企業による円滑な医療機器ビジネス参入のためのセミナーを開催します。	2月27日（金） (時間は近日確定)

上記イベントはほんの一部です。詳しくはホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

IDEC横浜

検索



事業などの情報をタイムリーにお知らせするため、各種メールマガジンを配信しています。どなたでも登録できます。IDECホームページ <http://www.idec.or.jp/> 「財団からの情報」の「財団発行メールマガジン」をご覧ください。

■ Information

IDEC施設入居者募集

- 横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア(金沢区:研究室・事務室)
- 横浜新技術創造館(鶴見区:研究室・事務室)
- 横浜市金沢産業振興センター(金沢区:事務室)
- 横浜市産学共同研究センター(鶴見区:実験棟・研究棟)
- 横浜情報文化センター(中区:事務室)

詳細はIDECホームページ <http://www.idec.or.jp/> 「施設のご案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご覧ください。

問 施設経営部 045-225-3710

ワンストップ経営相談のご案内 -お気軽にご利用ください-

創業や経営、技術、国際ビジネスなど様々な課題について、IDEC職員や専門家が無料(一部のものを除く)でおこたえします。

窓口相談(事前にご予約ください)

IDEC本部や金沢産業振興センター内の地域相談窓口で企業の皆さまの様々な経営課題についての相談をおこたえします。

技術相談(事前申込制・申込方法は以下参照)

大手企業OBなどの専門家が中小企業の皆さまを訪問し、技術課題の解決をお手伝いします。

国際ビジネス相談(先着・事前申込制)

経験豊かな専門家が中国、タイ、ベトナムなどの対象地域や貿易取引など実務についてテーマごとの相談会を毎月開催します。スケジュールとお申し込みは、IDECホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

専門家相談(事前申込制・申込方法は以下参照)

弁護士、社会保険労務士など分野別に曜日を決めてご相談におこたえします。法律(火曜日)、労務(金曜日)、IT活用(木曜日)

エキスパート面談(事前申込制)

事業計画、マーケティング、新事業、経営革新に取り組む上での具体的な課題などについて専門家が直接おこたえします。

経営コンサルティング

経営革新や新規事業展開などを目指す中小企業に専門家が継続的コンサルティングを実施します。

申込方法

IDECホームページ <http://www.idec.or.jp/> の「ニーズ別事業紹介」のメニューからご希望の事業を選び、各事業のページから相談事業を選んで申し込んでください。
なお、はじめて利用する方は、新規ユーザー登録が必要です(一部のものを除く)。

編集後記

ニュースレター第12号をお届けします。小紙は年4回発行ですから3年目の区切りを迎えることになります。発行当初は、IDECの活動内容について中小企業をはじめとする関係者の皆さんにわかりやすくお知らせすることを目的としていました。最近、ある企業の方から、過去の記事を会社の広報や事業の説明に利用しているとうかがい、記録としての役割も大きいということを再認識しました。そのためには、ひとつひとつの記事をしっかりと仕上げていくことが基本になると考えています。今後もスタッフ一同より良い紙面づくりに努めてまいります。ご意見、ご感想をお寄せください。